すべて無刺性であることは，著しい特性の一つである。蹠と跗は，下面の遠端近くに，毛總を具へてゐる。

腹部は楕圓狀長倒卵形である。背面前部に甲板が在り，腹面の胃外部も硬化してゐる。蛛疣は長さも太さも似たもの同士である。でも，前疣はいく分太く，硬化度も，少くとも第一節に關する限り，他よりもまさつてゐる。後疣は前疣よりも少々ほそいし，外方に出てゐる。その梢節は短い圓錐狀である。肛丘は小い圓錐體をしてゐる。

體長は 6.0 粍ある。

14) **ウチワグモの色彩** 背甲（胸柄をも含む），胸板，口器，腹柄の前半は濃褐色。その內，胸板と下顎はいく分淡い。觸肢は淡い褐黃色，遠端に近づく程濃い。步脚の膝・脛 2 節は淡い褐黃色，他は基遠兩端に向つて，焦茶色を加へて居る。腹柄の後半は白い。心前位の甲板と胃前域は褐黃色，他は一面に淡い革黃色である。但し，蛛疣は稍々はでな色調であり，肛丘は特にひどく淡い。

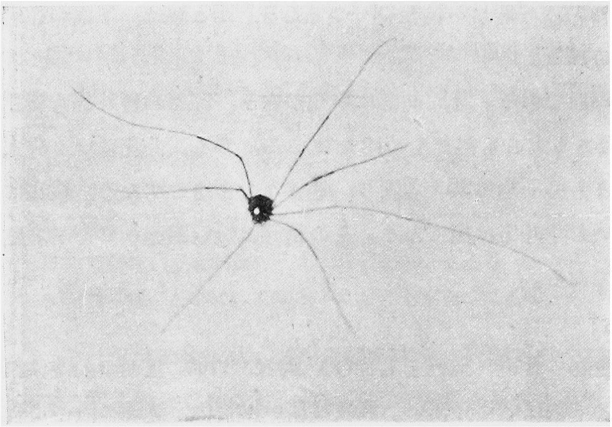
15) **ミルメキウム亞科と日本** 日本產フクログモ科は，今日までの筆者の知見の範圍では，6 亞科，10群，16屬，41種をかぞへる。併し，ミルメキウム亞科のものも早くから近畿以南臺灣までのところで見付かるだらうと豫測してゐるのであるが，未だに發見されない。それは筆者のやぶにらみをしたためであらうか。筆者は，いまだ尙ほさうとは考へないのである。特に擱筆に際し，同好諸君に，此の一語を獻じる。〔昭和十五年四月三日稿了〕

觀　察　二　題

横　川　久　美　代

蜘　蛛　の　浮　揚

蜘蛛の空中旅行に就いては本誌上に再三報告されてゐるが更に私の觀察を述



ダニに寄生されたヤマザトウムシ

べて見ようと思ふ。6月13日（晴）午前8時頃四條畷で蜘蛛を採集して居ると頸を匐ひ廻つて居るものがあつたので無意識的に取つて見ると1匹の仔蜘蛛だつた。間もなく更に2匹程頸部を匐ひ廻つたのでうるさく一時は腹立たしくさへ思つたが蜘蛛の空中旅行の事を想起し，翌日再び採集に行き同じ場所で僅か30分程の間に8匹の蜘蛛を頭や頸や手に於いて採る事が出來た。その後數日間同樣な觀察をしたが，その觀察の結果を報告すると

1. くもの大きさは平均2粍で，私の採集した最大のものは2.6粍であつた。尤ももつと大きなものを見たが採集が出來なかつた。
2. 風速は木の葉も搖れず僅かに頰に空氣の動きを感ずる程度で，風を認める程でなくても浮揚は可能である。
3. 蜘蛛の絲を手に取つて一方に蜘蛛を浮遊させると蜘蛛は4糎程絲を手繰りそこで自ら切つてその絲に依り氣流に乘り浮揚して行つた。その後更に絲を分泌するかどうか不明であるが，私の觀る所に依ると數糎の絲で充分なやうに思はれ，所謂ゴッサマーは見られなかつた。
4. 何處から浮揚して來たかは未だ究明して居ないがその地點より1粁程東に飯盛山があり，微風もその方向から來た事を思ふと或は其所から來たのではないかと考へて居る。